

古代学学術研究センター・研究会

# 古代を見なおす

日時： 1月18日（水）16:30～18:00

会場： 奈良女子大学文学系S棟3階327演習室

報告： 和歌が詠まれるとき —中世日本紀へ—

石黒 志保（奈良女子大学大学院人間文化研究科）

〈古代を見なおす〉作業は、従来の時代区分にいう「古代」の範囲内でなしうるものではありません。なぜ、その時期を「古代」として区分するのか、これもまた〈古代を見なおす〉には不可欠の問いであり、研究対象を「古代」に限定しながら、それを問うことはできないからです。今回は、そうした観点からも興味深い報告をいただきますので、ふるってご参加ください。

院政期後半から鎌倉初期にかけて、未だ嘗てないほど和歌論が生み出された。和歌論とは、日本における言葉への問いを記したものである。言葉の歴史を叙述するには、日本の歴史や神話を再構築する必要性がでてくる。なぜだろうか。言葉が生み出される時は往々にして、人々の既存の概念が喪われてきたことの顕れではなかろうか。本報告では、福原遷都から鎌倉幕府成立まで、既存の都「平安京」が揺れ動いた当時における言葉の認識を聞きたいと思う。

事前申し込みは不要、参加費は無料です。

みなさまのご参加をお待ちしています。

問い合わせ先：奈良女子大学 館野和己研究室（0742-20-3307）